シラバス

2025 年度　（9 期生）2 年前期

・こども福祉科

学校法人 斐川コア学園

出雲コアカレッジ

授業計画

科目名	保育の歴史と法Ⅰ	担当	持田　陽子
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する	授業形態	講義

単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻
授業時期（回数）	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】
保育の歴史的変遷について理解する
基本的人権や子どもの人権について理解する
日本国憲法などの基礎を理解する

【授業全体の内容と概要】
保育の歴史や日本国憲法、現代社会における諸問題を通して基本的人権や基礎的な法制度を学ぶ

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
現代社会における諸問題を通して基礎的な法制度を理解し、守られるべき人権の理解を深める

授業計画

第1回	法の目的と本質
第2回	法の体系とその効力
第3回	日本国憲法①
第4回	日本国憲法②
第5回	基本的人権と新しい人権
第6回	判例検討①
第7回	自由権と社会権
第8回	民法における親権
第9回	判例検討②
第10回	国会・内閣・裁判所①
第11回	国会・内閣・裁判所②
第12回	判例検討③
第13回	保育政策の歴史的変遷と今後
第14回	まとめ
第15回	試験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	みらい	保育と日本国憲法
参考文献		適宜授業にて資料配布
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	

授業計画

科目名	保育の歴史と法Ⅱ				担当	渡部 敏郎		
実務経験	理学修士、高等学校管理職としての専門性を活かし、講義・演習を行う						授業形態	講義
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
保育士・幼稚園教諭を目指す人たちが、保育や教育に関する法律について演習を交えながら学ぶ。

【授業全体の内容と概要】
教育基本法や学校教育法、児童福祉法、その他の保育・教育に関連する法律について、事例を通して理解する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
保育現場における様々な課題を法的な観点から捉え、自らの力で最適な解決を図ることができるようになる。

授業計画

第1回	憲法の基本的考え方 前文と重要条文 日本国憲法 前文と教育に関する条項 第11条・13条・14条・19条・23条・26条・27条
第2回	教育基本法とは 教育の目的と目標 家庭教育 幼児期の教育 社会教育 教育基本法 前文 第1条・2条・10条・11条・12条・13条
第3回	生涯学習 教育の機会均等 政治教育 宗教教育 教育行政 教育振興基本計画 教育基本法 第3条・4条・14条・15条・16条・17条
第4回	学校とは 幼稚園(保育所)の目的・目標 学校教育法 第1条・22条・23条・24条・25条・26条・27条 保育所保育指針
第5回	体罰の禁止及び懲戒について 学校教育法 第11条 体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底(文科省通知)
第6回	児童・生徒の保護について 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律
第7回	人権教育及び児童の権利に関する条約について 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 子どもの貧困対策の推進に関する法律
第8回	いじめの防止と対応について いじめ防止対策推進法 いじめ防止等のための基本的な方針 重大事態の調査に関するガイドライ
第9回	安全教育と防災教育 について 学校保健安全法 第27・29・30条 学校防災作成手引き・学校事故対応に関する指針(文科省)
第10回	食育 学校給食 アレルギー について 食育基本法 学校給食法
第11回	特別支援教育 障害の程度 発達障害 について 学校教育法施行令第22条 発達障害者支援法
第12回	インクルーシブ教育 合理的配慮 障害者差別解消 について 共生社会の支援教育の推進 障害者の権利に関する条約 第2・24条 障害者基本法 第1・2・16条
第13回	社会教育と法規 について 社会教育法 子どもの読書活動の推進に関する法律 スポーツ基本法
第14回	幼保小連携 保護者との関係 について 事例演習
第15回	保育を取りまく社会との関係 について 事例演習

	出版社名	書 籍 名
テキスト		『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房、必要に応じてプリントを配布
参考文献		
成績評価の方法	出席状況 授業態度 提出物 レポート	

授業計画

科目名	就職支援				担当	持田 陽子		
実務経験	ジョブカード作成アドバイザーとして学生に指導を行う						授業形態	演習
単位数	6				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15		(教養) 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】

社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する

【授業全体の内容と概要】

自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。
校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する

授業計画

第1回 ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)	第16回 1年次振り返り
第2回 自己理解について	第17回 ジョブカード作成
第3回 自分のめざす社会人像について	第18回 個別面談①進路希望調査
第4回 職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)	第19回 個別面談②進路希望調査
第5回 自分の目指す保育士像と達成への具体的取組みについて	第20回 福祉人材センターへの登録
第6回 個別面談①(進路希望調査)	第21回 就職先についての情報収集①
第7回 ジョブカード作製	第22回 就職先についての情報収集②
第8回 求人票の見方、検索方法	第23回 就職を見据えた活動①
第9回 履歴書の書き方	第24回 就職を見据えた活動②
第10回 電話のかけ方、話し方	第25回 就職を見据えた活動③
第11回 礼状の書き方	第26回 就職を見据えた活動④
第12回 面接マナーと自己PR	第27回 個別面談③進捗状況調査
第13回 採用試験対策	第28回 就職を見据えた活動⑤
第14回 就職活動に向けた調査①	第29回 就職を見据えた活動⑥
第15回 就職活動に向けた調査②	第30回 まとめ

テキスト	CORE Academy Diary
参考文献	適宜資料配布
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・提出物等

授業計画

科目名	子ども家庭支援の心理学	担当	小山　穂菜美
実務経験	教育現場での実務経験を活かし講義を実施する。	授業形態	講義

単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】
生涯発達に関する心理学的な基礎知識を習得し、各時期の特徴や発達課題について理解する。また、家庭支援や子育て支援について発達的観点から学ぶことを通して、子どもやその家庭を包括的に捉える視点を身につける。加えて、子どもの精神保健とその課題について理解する。

【授業全体の内容と概要】
生涯発達及び子どもの精神保健について基礎的な事項を学ぶ。また、家庭や家族について基本的な定義や特徴を踏まえたうえで、現代の社会状況とその中における子どもの育ちについて理解を深める。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
・生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、発達課題について理解する。
・子どもの精神保健とその課題について理解する。
・家庭や家族の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点をもつ。
・子どもとその家庭を取り巻く現代の社会的状況について理解する。

授業計画

第1回	生涯発達の考え方	
第2回	発達過程①　乳幼児期・学童期	
第3回	発達過程②　思春期・青年期	
第4回	発達過程③　成人期・高齢期	
第5回	子育て経験と親としての育ち	
第6回	子育て家庭に関する現状と課題①　課題設定・グループワーク	
第7回	子育て家庭に関する現状と課題②	グループ発表とディスカッション
第8回	子育て家庭に関する現状と課題③	
第9回	子育て家庭に関する現状と課題④	
第10回	子育て家庭に関する現状と課題⑤	
第11回	特別なニーズを持つ家庭と援助	
第12回	子どもの精神保健とその課題①　子どもの心の理解	
第13回	子どもの精神保健とその課題②　子どもの心の健康に関わる症状	
第14回	子どもの精神保健とその課題③　子どもの心の健康に関わる症状	
第15回	試験	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	ななみ書房	子ども家庭支援の心理学
参考文献		
単位認定方法	出席数、授業態度、グループ発表課題、提出物	

授業計画

科目名	子どもの理解と援助				担当	岡﨑　由美子		
実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、保育者について考え講義を行う。						授業形態	講義・演習
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
		15			教養　(必修)　選択必修　・　幼免			

【授業の目的・ねらい】

保育をとおして一人一人の子どもの姿をどのように受け止めどのように支援・援助していくとよいか。その重要性を考え理解する。

【授業全体の内容と概要】

子ども理解の基盤となる発達を踏まえて目の前にする子ども理解していくために実際に保育の場に出向き、記録し、事例の討議を積み重ねる。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

子どもを「見ると」はどういうことか理解し実践の場で力が発揮できるようにしていく。

授業計画

第1回　子どもを「見る」とは

第2回　共感的アプローチ

第3回

第4回

第5回　伊波野保育園に出かけ子どもの遊びやかかわりの姿を記録し、学びにつなげていく。

第6回

第7回　各自が記録した事柄(事例)を討議していく時間をもち、理解を深めていく。

第8回

第9回

第10回

第11回　寄り添う保育　理解、支えるとは

第12回　保護者理解とは

第13回　個と集団の関係

第14回　子ども理解を深めるために必要なこととは

第15回　試　験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	ミネルヴァ書房	子ども理解と援助
参考文献		保育所保育指針、　幼稚園教育要領、　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解
成績評価の方法	試験、出席状況、提出物等	

授業計画

科目名	保育内容(人間関係)	担当	岡﨑由美子		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、子どもの表現方法を演習を通して行う。			授業形態	演習
単位数	2	学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期 / 1年後期 / 2年前期 / 2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
	15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
乳幼児期の人間関係の発達の姿を理解し、人とかかわる力を育てるための指導及び援助について学ぶ。加えて、人的環境である保育者として必要な役割やあり方を学ぶ。

【授業全体の内容と概要】
乳幼児の心身の発達とともに人とかかわる力が育つ過程を学ぶ。その上で、人とかかわる力を育てる保育者の役割について学習する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
1.乳幼児の発達の姿をとらえ、人とかかわる力を身につけていく過程について理解する。 2.保育内容を構成する人間関係について理解し、乳幼児の人とかかわる力を養うための保育者の役割や援助のあり方を理解する。

授業計画

第1回	幼児教育の基本と領域「人間関係」
第2回	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」と具体的な姿
第3回	子どもを取り巻く人々と人間関係①
第4回	子どもを取り巻く人々と人間関係②
第5回	人とかかわる力の育ち(乳児期)
第6回	人とかかわる力の育ち(1歳以上3歳未満)
第7回	人とかかわる力の育ち(3歳以上)
第8回	子どもの遊び・いざこざと人間関係
第9回	子どもの様々な感情と人間関係
第10回	人間関係を育む保育展開の演習①
第11回	人間関係を育む保育展開の演習②
第12回	人間関係を育む保育展開の演習③
第13回	人間関係を育む保育展開の演習④
第14回	小学校生活への接続
第15回	試験

	出版社名	書 籍 名
テキスト	北大路書房	保育内容 人間関係
参考文献		
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験	

授業計画

科目名	保育内容(表現)				担当	岡崎　由美子		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、子どもの表現方法を演習を通して行う。						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】

保育領域「表現」の内容を理解し、いろいろな体験をする中で自らの感性を磨く。

【授業全体の内容と概要】

①理論学習　　②実技　　③創作・発表

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

理論的・実践的な学び・創作発表を通じ、想像的・創造的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す。

①領域「表現」の理解

②乳幼児期の表現の特徴、生活や人間関係とのかかわりを知る。

③自らの気持ちを自分らしく表現できる表現力を磨く。

授業計画

第1回	○オリエンテーション	
第2回	○ 領域「表現」のねらいと内容を理解・幼稚園教育要領、保育所保育指針	
第3回	○子どもの育ちと表現	・リズム遊び・リトミックの理解
第4回	**○保育者の感性と表現**	・はせみつこ編「おどる詩・あそぶ詩・きこえる詩」
第5回	**○子どもの感性と表現**	(詩を朗読して感じ、考える)
第6回	演　習	
第7回	○季節・自然を感じ・考える	保育の中で行われる行事を体験する
第8回		
第9回	○いろいろな素材との出会い	
第10回		
第11回	○表現を育てる保育者の役割と園環境	
第12回		
第13回	○協同(共同・協働)	**※作品・制作 への取り組み**
第14回		
第15回	○試　験	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	北大路書房	保育内容「表現」
参考文献		幼稚園教育要領、保育所保育指針
成績評価の方法	出席状況、提出物、発表態度	

授業計画

科目名	子どもの健康と安全				担当	舟木 賢治		
実務経験	医学部や看護学校における発生学，解剖・生理学の講義及び実習指導の経験を活かし、保育における保健的対応について演習を行う。						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期（回数）	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
1.保育における保健的観点を踏まえた保育環境とその整備、必要な援助について理解し、説明できるようになる。
2.保育における保健的対応の基本的な考え方を理解し、子どもの発達や状況を考慮した上で、体調不良等に対して具体的かつ適切に対応できるようにする。

【授業全体の内容と概要】
関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、講義をベースに演習を組み入れながら学習の理解を深める。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
1.子どもにとって望ましい保育環境を考え、保育現場の衛生管理や安全対策について説明できる。
2.子どもが傷病を負った場合に、適切に対応することができる。
3.子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的な連携について説明できる。

授業計画

第1回	子どもの健康と安全を確保する保育環境と保健活動	
第2回	保育現場での衛生管理	
第3回	子どもの事故防止と安全対策	(1)事故の実態について調べる
第4回		(2)事故の実態についてまとめる
第5回		(3)事故の実態調査について発表
第6回		(4)事故防止：子どもの視野体験〔演習〕
第7回	保育の「安全面」の配慮	
第8回	子どもの体調不良などへの対応	(1) 子どもの主な体調不良への対応
第9回		(2) 応急処置
第10回		(3) 救急処置と救急蘇生法〔演習〕
第11回	感染症の予防と対策	(1) 感染症の集団発生の予防
第12回		(2) 感染症対策
第13回	保育所における保健的対応	(1) 3歳未満児への対応
第14回		(2) 個別的な配慮を要する子どもへの対応
第15回	健康、安全への取組み及び災害への備えと危機管理	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	総合医学社	「保育者のための わかりやすい 子どもの保健」監修 飯島一誠，編集 稲垣由子他
参考文献		適時，資料を配布
単位認定方法	出席状況（10%）、調査発表、レポートを総合して評価する	

授業計画

科目名	障害児保育				担当	原　広治		
実務経験	特別支援教育の実践や教育行政等での経験を活かし、子どもと周囲のヒト・モノ・コトとの関係の視点から、障碍の捉えと実践について講義・演習を行う。						授業形態	演習
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養　(必修)・選択必修・幼免			

【授業の目的・ねらい】
・障碍児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
・様々な障碍と障碍のある子どもについて理解し、彼らへの保育の在り方について理解する。
・障碍のある子どもを養育する保護者への支援や関係機関等との連携について理解する。

【授業全体の内容と概要】
・障碍児保育の理念や関わりの基本的な内容について、グループワーク等を通して学びを反すうしながら理解を深める。
・実践事例にふれながら互いの意見を出し合い、実感としての理解を深める。
・様々な障碍や障碍のある子どもの理解を深め、支える保育について学ぶ。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
・障碍のある子どもに対する尊厳を重視した保育での関わりや支援の在り方を理解し、保育所におけるインクルーシブ保育への理解を深めるとともに、個別的保育と集団保育の意義がわかる。

授業計画

第1回	障碍のある子の保育の歴史的変遷と障碍児施策
第2回	発達と障碍の捉え直しと支援の視点
第3回	障碍と障碍のある子へのかかわり①まとめ
第4回	障碍と障碍のある子へのかかわり②まとめ
第5回	障碍と障碍のある子へのかかわり③発表・協議
第6回	障碍と障碍のある子へのかかわり④発表・協議
第7回	様々な障碍の理解と配慮①まとめ
第8回	様々な障碍の理解と配慮②まとめ
第9回	様々な障碍の理解と配慮③発表・協議
第10回	様々な障碍の理解と配慮④発表・協議
第11回	発達障碍のある子の理解と援助
第12回	一人一人に応じた保育計画
第13回	職員間の協働・同僚性と他機関との連携、就学相談と学校との接続
第14回	就学相談と学校との接続
第15回	授業全体のまとめ

	出版社名	書　籍　名
テキスト	ミネルヴァ書房	障碍のある子と共に歩んだ20年～エピソード記述で描く 子どもと家族の関係発達
参考文献		
成績の評価の方法	試験・レポート(70%)、発表・提出物(20%)、授業への積極性(10%)を総合して評価します。	

授業計画

科目名	社会的養護Ⅱ	担当	持田　陽子
実務経験	福祉および教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する	授業形態	演習

単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】
子ども理解を踏まえた結果社会的養護の基礎的な内容について理解する
施設養護及び家庭養護の実際について理解する
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する
社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について理解する
【授業全体の内容と概要】
子どもの最善の利益を考察し、保育者として具体的な子どもに対する養護を学ぶ
【授業終了時の達成課題(到達目標)】
子どもの最善の利益を考察した結果、保育者として具体的な子どもに対する養護を理解する

授業計画

第1回	社会的養護における子どもの理解
第2回	家庭養護の生活特性及び実際
第3回	社会的養護における家庭支援
第4回	施設養護の生活特性及び実際　乳児院
第5回	施設養護の生活特性及び実際　障害児施設等
第6回	社会的養護の内容①日常生活支援
第7回	社会的養護の内容②心理的支援
第8回	社会的養護の内容③自立支援
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成
第10回	記録及び自己評価
第11回	社会的養護における保育の専門性に関わる知識と技術その実践
第12回	社会的養護における相談援助の知識と技術その実践
第13回	今後の社会的養護の課題と展望
第14回	まとめ
第15回	試験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	みらい	保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ
参考文献		適宜授業にて資料配布
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	

授業計画

科目名	子育て支援	担当	持田 陽子
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。	授業形態	演習

単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科
			15		教養 ・ 必修 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】
子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解する。その上で、保護者との信頼関係を形成し、保育相談支援が実践できる基本的知識と方法を身につける。

【授業全体の内容と概要】
保育者が行う子育て支援のあり方や地域の関係諸機関との連携について学習する。また、演習課題等を通して、保育相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携について学習する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相 談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。
2.保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

授業計画

第1回	保育士の行う子育て支援の特性	(1)子どもの保育とともに行う保護者の支援
第2回		(2)子育て支援の基本的価値・倫理
第3回		(3)保護者との相互理解と信頼関係の構築
第4回	保育士の行う子育て支援の展開	(1)子ども及び保護者の状況・実態の把握
第5回		(2)支援の計画と環境の構成
第6回		(3)支援の実践・記録・評価・カンファレンス
第7回		(4)職員間の連携・協働
第8回		(5)社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
第9回	保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)	(1)保育所等における支援 (2)地域の子育て家庭に対する支援
第10回		(3)障害のある子ども及びその家庭に対する支援
第11回		(4)特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
第12回		(5)子ども虐待の予防と方法
第13回		(6)要保護児童等の家庭に対する支援
第14回		(7)多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
第15回	試験	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	テキストなし 適宜資料を配布	
参考文献		
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験	

授業計画

科目名	保育実践演習				担当	岡崎由美子		
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、現代の保育について考る。						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

これまで修得してきた保育に関する知識や技術を生かし、保育を取り巻く諸問題に対して現状分析・検討を行うことを通して、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。

保育を取り巻く諸問題に関して、自分で問題意識や興味関心に応じて課題を見つける。その課題について、自身で情報収集をしたり、ディスカッションをしたりしながら理解を深め、解決法を自分なりに考えていく。

・保育者の専門性についての理解を深めることができる。
・保育の現状を踏まえ、問題を発見し、情報収集や検討を行い、問題解決について自分の考えをもつことができる。
・保育を取り巻く諸問題について、自分なりの考えをもち、保育実践で生かすことができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	情報収集 グループ討議
第2回	保育実習の振り返り	
第3回	保育者としての基本的振る舞いと向上について考える	
第4回		
第5回	子どもの育ちと家庭、社会環境の影響	
第6回		
第7回	現行保育制度の問題点　(※少子化時代の保育として～)	
第8回	専門的課題に取り組む	
第9回	課題設定	※調べ学習(レポート、教材等)
第10回		
第11回		※保育を取り巻く諸問題について、問題を発見し、情報収集や検討を行い、問題解決について自分の考えをまとめる。
第12回		
第13回		※保育教材を創意工夫して作成する (子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど)
第14回		
第15回	発表・まとめ	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	建帛社	保育・教職実践演習
参考文献	フレーベル館	保育所保育指針解説書　幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育保育要領
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、発表	

授業計画

科目名	卒業研究				担当	岡﨑由美子・持田陽子		
実務経験	-						授業形態	演習
単位数	4				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
これまでの学習を総合的に活かし、課題提起をしながら研究を行う。
【授業全体の内容と概要】
各自研究を進め、必要に応じて検討会を開催する。教員による指導は、適宜個別に行う。
【授業終了時の達成課題(到達目標)】
以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。
①卒業研究として適切なテーマを設定することができる。
②設定したテーマの情報を収集し、課題に取り組み発表することができる。

授業計画

第1回	前期卒業研究の進め方について
第2回	研究
第3回	研究
第4回	研究
第5回	研究
第6回	研究
第7回	研究
第8回	討議
第9回	討議
第10回	研究
第11回	研究
第12回	研究
第13回	研究
第14回	口頭試問
第15回	口頭試問
第16回	後期卒業研究の進め方について
第17回	研究
第18回	研究
第19回	研究
第20回	研究
第21回	研究
第22回	中間報告
第23回	中間報告
第24回	研究
第25回	研究
第26回	研究
第27回	研究発表準備
第28回	研究発表準備
第29回	研究発表
第30回	研究発表

	出版社名	書 籍 名
テキスト	適宜資料等配布	
参考文献		
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、報告、研究発表内容等を総合的に評価	

授業計画

科目名	子どもと自然				担当	渡部　敏郎		
実務経験	教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う						授業形態	演習
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】

「人間は生き物であり、自然の一部である」というあたりまえのことを基本に「どう生きるか」を考えてみる。
自然という生き物を取り巻く環境が生き物に及ぼす影響や育つ条件をしり、さらに、生き物と自然のかかわりを探求する。
生き物を育て育成する実践活動を通して、生き物への興味・関心を深める。

【授業全体の内容と概要】

生き物に関する基礎的知識と動植物の飼育・栽培方法について学習する。生き物の飼育や栽培などの
実践的活動をとおして生きること育てることの大切さを知り、命の重みに気づく。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

・生き物と自然の関係や育成環境について理解する。
・生物の育成条件と自然とのかかわりを理解し、適切な栽培・飼育の技術、管理方法を習得する。
・保育現場での生き物とかかわる保育についての指導のありかたについて理解を深める。

授業計画

第1～2回　生き物の多様性と自然のとらえ方、生息環境

第3～4回　生き物と自然の構成と人間とのかかわりについて

第5～6回　自分の育てたい植物栽培の技術と育成環境の管理

第7～8回　栽培の実践活動(1)

第9～10回　栽培の実践活動(2)

第11～12回　栽培の実践活動(3)

第13～14回　生物の野外観察・採集

第15～16回　野外観察・採集した生物の食性や習性に関する調査

第17～18回　野外観察・採集した生物の食性や習性に関する発表

第19～20回　近年の子どもの育ちと自然及び環境について

第21～22回　子どもの育ちに与える生き物の影響と関わり方

第23～24回　保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(1)

第25～26回　保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(2)

第27～28回　保育現場での生き物及び自然環境の問題点と留意点

第29～30回　試験

テキスト	なし	
参考文献		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	

授業計画

科目名	リズム表現Ⅱ				担当	岡﨑由美子		
実務経験	幼稚園教諭としての経験を活かし、演習を行う。						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
リトミックをとおして保育実践の中で必要な演奏技術や表現活動を身に付け、実践へとつなぐ。

【授業全体の内容と概要】
保育現場で多く歌われる楽曲を選択し、身体表現の楽しさや歌うことの楽しさを感じ、指導方法や基本的な音と動きを身につける。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
音楽的知識を自分の体を使って感じ取り、理解しながらそれらを実践的に展開していく。

授業計画

第1回
○オリエンテーション　・リズム表現とは

第2回
○リトミックの基本
・身体のバランスを考える

第3回
○子どもの歌　(季節を感じる)

1. 身体の開放
2. 身体を感じる
3. 口の体操
4. アクセントと拍子
5. 指揮法
6. ソルフェージュ

第4回

第5回
○聴　音
ハ長調、4/4,　2/4,

第6回
※毎回行う簡単な聴音を経験する中で、
リズムや拍、即興・伴奏に親しむ

第7回

第8回

第9回

第10回
○伊波野保育園のリズム運動を見学→(時期を調整する)

第11回

第12回
○課題曲(CD)を聴き、しっかりと曲の持つイメージを受け入れ、試行錯誤しながら自分なりの表現をしていく過程を楽しみ、仲間と一緒に一つの作品として発表する。

第13回

第14回

第15回
○試　験

	出版社名	書 籍 名
テキスト		
参考文献	国立音楽大学付属幼稚	幼児のためのリトミック、幼児のためのリトミック改訂版
成績評価の方法	出席数、提出物、表現実技、	

授業計画

科目名	特別ニーズ教育論				担当	三島　修治		
実務経験	小中学校での特別支援教育に携わった経験及び教育行政での勤務経験を活かし、実践事例を交えながら講義・演習を行う。						授業形態	講義
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期（回数）	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解するとともに、その支援の在り方について、保育現場や学校教育現場の事例をとおして理解する。

【授業全体の内容と概要】

学生同士のディスカッションや個人及びグループ発表、レポートなどをとおして（1）インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について、（2）我が国の特別支援教育に理念、制度及び展開、（3）特別支援学級や特別支援学校、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、について理解する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

（1）インクルーシブ教育の理念と特別支援教育、（2）障がいの理解と特別支援教育、（3）いじめ、不登校等特別な支援のニーズのある児童生徒の理解と支援の実際、の基本的な内容について理解するとともに、自分の考えを持って説明できる。

授業計画

第1回	特別な教育的ニーズとは何か 特別な教育的ニーズとは何かについて討論し、講義全体への理解を深める。
第2回	特別な教育的ニーズについて考える（母語が日本語でない児童生徒） 母語が日本語でない児童の抱える教育的ニーズ、社会的・教育的支援について学習する。
第3回	特別な教育的ニーズについて考える（貧困家庭、ヤングケアラー）の抱える教育的ニーズ 貧困家庭、ヤングケアラーの抱える教育的ニーズ、社会的支援について学習する。
第4回	いじめの理解と対応 いじめについて、その定義や実態を理解するとともに、不登校との関連を学習する。
第5回	不登校への支援と対応 不登校の児童生徒について、その背景と支援の実際について学習する。
第6回	インクルーシブ教育の理念とこれからの特別支援教育 インクルーシブ教育、合理的配慮とユニバーサルデザイン教育の実際について学習する。
第7回	発達障害の理解と支援（LD） 疑似体験や事例を基に、LDについての理解とその支援について学習する。
第8回	発達障害の理解と支援（ADHD） 事例を基に、ADHDの理解と支援について学習する。
第9回	発達障害の理解と支援（ASD） 事例を基に、ASDの理解と支援について学習する。
第11回	子ども理解・アセスメントについて 子どもの理解の基本的な考え方と心理検査の活用について学習する。
第12回	医療的ケア児について 医療的ケアの必要な幼児、児童生徒についての理解と対応について学習する。
第13回	特別支援学級・特別支援学校での教育 特別支援学級・特別支援学校における教育課程の考え方と特色について学習する。
第14回	社会自立と就労支援 支援の必要な生徒の社会自立と就労の考え方と就労への福祉制度について学習する。
第15回	筆記試験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	なし	講義ごとに資料を作成・配布します。
参考文献	文部科学省	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）
単位認定方法	対面授業の評価と印刷授業（レポートの評価と終了試験試験）の総合評価による。	
学生に	対面授業の評価と印刷授業（レポート評価、科目修了試験）の総合評価による。	

に対する評価	対面授業	参加態度・課題提出状況10%		
	印刷授業	レポートの評価と科目終了試験の総合評価90%		
	総合評価	A(100点～90点)、B()89点～80点)、C(69点～60点)、D(不合格:59点以下)		
レポート課題				
設題数		枚数	形式	用紙
1		1題につき6枚～8枚	横書き	A4版、40字×40行
課題について		現代の学校は、発達障害、貧困、外国籍児童、いじめ、不登校等、様々な教育的ニーズに応えなければならない。現在の学校が抱える課題の中から1つ選び、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてのあなたの考える方策を述べよ。		
レポート課題のポイント		・インクルーシブ教育は、通常教育の改革であるという視点から考察する。 ・教育的ニーズの具体例や対応策を文献や新聞などで調べる。 ・調べた具体例と対応策について、自己の経験や思いと重ね合わせて、自分の考えとして文章化する。(その際、必ずデータを基に説明、文章化すること) ・レポートの構成はは、テーマ、テーマ設定の理由、テーマに関する現状(文献や新聞等の資料やインクルーシブ教育の視点での分析・考察を含めること)、テーマに関する自身の考え、テーマの解決のための方策、全体を通しての考察の各項目とすること。		

授業計画

科目名	造形表現Ⅱ				担当	廣江　潮美		
実務経験	美術の教員として指導した経験を活かし、演習を行う						授業形態	演習
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】

幼児の造形教育において必要な知識、技術の理解、習得を深め、造形的な保育実践力を養う。

【授業全体の内容と概要】

1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。
2. 造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

1. 幼児の豊かな造形表現を指導、援助するために、造形表現体験を通して、造形活動の知識や技術の理解、習得を深める。
2. 保育実習に向けて、題材研究、教材化、造形表現の展開等、保育の造形的実践力を養う。
3. 作品や画像・制作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや今後の指導資料として活用する。

授業計画

第1回	【オリエンテーション】「こどもと造形Ⅱ」のねらいと内容について 造形教育の果たす役割と授業の取り組み方 子どもの造形表現の発達と作品の見方、関わり方 (pp.63-82)
第2回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 発想・構想 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう
第3回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作① 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう
第4回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作② 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう
第5回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作③ 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう
第6回	『モダンテクニックを活用した紙芝居づくり』(p.21、p.46) 制作④ 「保育実習で活用する教具づくり」 モダンテクニックの様々な模様を活かしてつくろう
第7回	作品発表会 制作した教具を活用した模擬保育 (幼児側と保育者側に分かれて)
第8回	『折り紙を使った色面構成』(p.37)
第9回	『おもちゃをつくる』(pp.141-154)
第10回	『お面をつくる』(p.47)
第11回	『ビニールでつくる』 (p.48、p.138)
第12回	『衣装デザインと制作』 制作① 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも
第13回	『衣装デザインと制作』 制作② 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも
第14回	『衣装デザインと制作』 制作③ 様々な材料でつくる～生活素材、自然素材、新聞紙、段ボール、ビニール、ひも
第15回	作品発表・鑑賞、まとめ　幼児造形教育の果たす役割と援助のしかた

	出版社名	書　籍　名
テキスト	萌文書林	『保育をひらく造形表現』
参考文献		
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)	

授業計画

科目名	保育実習指導Ⅱ				担当	佐々木明美		
実務経験	保育現場で実習指導に携わった経験を活かし、細やかな指導をする。						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15		教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
・保育実習Ⅱの意義・目的・内容を理解し、保育について総合的に理解する。
・保育実習Ⅰや既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
【授業全体の内容と概要】
・子どもの状況に応じた適切な関わり方や保育の知識・技術を活かした保育実践力を養う。
・模擬保育を行うことにより、計画・実践・評価・改善のプロセスを体験し、実習に活かす。
【授業終了時の達成課題(到達目標)】
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画

第1回	保育実習Ⅱに向けて (保育実習Ⅰの振り返りを通して)
第2回	子どもの気持ちを理解する関わり
第3回	保育者の動きや思いの読みとり
第4回	実習の記録(日誌)について (保育実習Ⅰ日誌のステップアップ)
第5回	事前訪問について
第6回	実習目標作成
第7回	実習に必要な保育技術 (手あそび、絵本の読み聞かせ、弾き歌い)
第8回	指導案作成 (責任実習に向けて)
第9回	模擬保育 (計画・実践・記録・評価・改善)
第10回	模擬保育 (計画・実践・記録・評価・改善)
第11回	実習事前指導 (確認事項、お礼状の書き方)
第12回	実習事後指導 (実習の振り返り、自己評価)
第13回	実習事後指導 (報告会に向けて)
第14回	報告会
第15回	実習総括 "理論・知識を実践にどうつなぐか"

	出版社名	書 籍 名
テキスト	ナツメ社	大元千種監 実習の日誌と指導案(保育実習指導Ⅰの講義で使用したテキスト)
参考文献	フレーベル館	保育所保育指針解説 適宜資料配布
成績評価の方法	出席状況・授業態度・提出物等	

シラバス

2025 年度　（9 期生）2 年後期

・こども福祉科

学校法人 斐川コア学園

出雲コアカレッジ

授業計画

科目名	就職支援				担当	持田 陽子		
実務経験	ジョブカード作成アドバイザーとして学生に指導を行う						授業形態	演習
単位数	6				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15		(教養) 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】

社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する

【授業全体の内容と概要】

自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。
校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する

授業計画

第1回 ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)	第16回 1年次振り返り
第2回 自己理解について	第17回 ジョブカード作成
第3回 自分のめざす社会人像について	第18回 個別面談①進路希望調査
第4回 職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)	第19回 個別面談②進路希望調査
第5回 自分の目指す保育士像と達成への具体的取組みについて	第20回 福祉人材センターへの登録
第6回 個別面談①(進路希望調査)	第21回 就職先についての情報収集①
第7回 ジョブカード作製	第22回 就職先についての情報収集②
第8回 求人票の見方、検索方法	第23回 就職を見据えた活動①
第9回 履歴書の書き方	第24回 就職を見据えた活動②
第10回 電話のかけ方、話し方	第25回 就職を見据えた活動③
第11回 礼状の書き方	第26回 就職を見据えた活動④
第12回 面接マナーと自己PR	第27回 個別面談③進捗状況調査
第13回 採用試験対策	第28回 就職を見据えた活動⑤
第14回 就職活動に向けた調査①	第29回 就職を見据えた活動⑥
第15回 就職活動に向けた調査②	第30回 まとめ

テキスト	CORE Academy Diary
参考文献	適宜資料配布
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・提出物等

授業計画

科目名	教育相談				担当	高木　敏光		
実務経験	小・中学校、教育行政勤務の専門性と現場経験を活かし、講義を行う。						授業形態	講義
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
				15	教養　・　必修　(選択必修)　・　幼免			

【授業の目的・ねらい】
教育相談やカウンセリングの基礎的な理論を理解した上で、幼児期からの保育・教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる力を身につける。

【授業全体の内容と概要】
教育相談の意義や課題を学び、教育相談的な視点から保育での子ども及び関係者等との関わりについての基本的姿勢を身に付けられるよう、演習等を通して自己・他者との対話を行う。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
1.教育相談に必要な理論、概念、方法を理解する。
2.教育相談を進める際に必要となる基礎的知識、基本的姿勢を身につける。
3.子どもや保護者、関係者との関わりの中で、保育者(教師)自身が自己課題に気づき、自己成長を図る視点を養う。

授業計画

第1回	子どもを取り巻く環境の変化(今後の教育に求められていること)
第2回	子どもを取り巻く環境の変化(現在の子どもの心をあらわす事象から考える)
第3回	子どもの発達①
第4回	子どもの発達②
第5回	教育相談の概要と意義
第6回	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド　遊戯療法
第7回	幼稚園教育要領等で求められている保育者の関わり
第8回	遊びやくらしの中での保育者の関わり①
第9回	遊びやくらしの中での保育者の関わり②
第10回	子どもを取り巻く関係者が及ぼす影響①
第11回	子どもを取り巻く関係者が及ぼす影響②
第12回	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド　カウンセリング
第13回	子どもを取り巻く関係者(保護者)の支援
第14回	教師自身のメンタルヘルスと自己成長
第15回	試験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	北大路書房	エッセンス学校教育相談心理学
参考文献		
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験	

授業計画

科目名	子ども家庭支援論				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。						授業形態	講義
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
				15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
子ども家庭支援の意義を理解し、保育士の専門性を活かした支援の特徴や問題解決の実際を知る。加えて、子育て家庭に対する支援体制を理解し、多様なニーズに応じた支援の展開と関係機関との連携について理解する。

【授業全体の内容と概要】
子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等について学習する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
1.子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2.保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業計画

第1回	子ども家庭支援の意義と役割	(1)子ども家庭支援の意義と必要性
第2回		(2)子ども家庭支援の目的と機能
第3回		(3)家庭の状況に応じた支援
第4回	子育て家庭に対する支援の体制	(1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第5回		(2)育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
第6回	多様な支援の展開と関係機関との連携	(1)子ども家庭支援の内容と対象
第7回		(2)保育所等を利用する子どもの家庭への支援
第8回		(3)地域の子育て家庭への支援
第9回		(4)要保護児童等およびその家庭に対する支援
第10回		(5)子どもの家庭支援に関する現状と課題
第11回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	(1)保育士の専門性を活かした子ども家庭支援とその
第12回		(2)子どもの育ちの喜びの共有
第13回		(3)保護者の養育力向上に資する支援
第14回		(4)保育士に求められる基本的態度
第15回	試験	

	出版社名	書 籍 名
テキスト	テキストなし　適宜資料を配布	
参考文献		
単位認定方法	授業態度、出席状況、提出物、定期試験	

授業計画

科目名	子どもの育ちと文化				担当	岸 まゆみ		
実務経験							授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
				15	教養	(必修)・ 選択必修 ・ 幼免		

【授業の目的・ねらい】
より実践的な技術の向上を目的とし、基本を抑えた上での表現の幅を広げていく
子どもたちが創り出す遊びについて話し合い子どもの文化 について考えていく
【授業全体の内容と概要】
保育の中の文化活動を体験的に学び、技術として身につける
グループ活動を通して協調性や協同性を養う。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】
保育の内容を理解し言語表現活動を体験的に学ぶ
子どもの遊びを豊かにする展開方法を学ぶ
具体的な遊びの工夫(伝承遊び・創作遊び)、技術(絵本の読み聞かせ・芝居を演じる・素話等)を身につける
自分の得意とする保育技術を見つけ、更なる向上心をもつ。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	子どもの文化とは何か
第3回	児童文化財と保育
第4回	伝統行事と伝承遊び
第5回	実践演習①
第6回	実践演習②
第7回	実践演習③
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	評価　　発 表

※表現していくことの楽しさを感じ取りながらいろいろな人と関わって一つの作品づくりを体験する。

※考え・工夫・協働作業を行うことを基本として授業を進めていく。

	出版社名	書 籍 名
テキスト	なし	
参考文献	ミネルヴァ書房	子どもの文化 演習ブック
成績評価の方法	出席状況・授業態度(積極性)・提出物	

授業計画

科目名	子どもの世界				担当	岡﨑　由美子	
単位数	2				学　科	□ ITビジネス	□情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科
				15	教養　・　必修　・　選択必修		

【授業の目的・ねらい】

子どもは豊かに伸びていく可能性を秘めており、どのような方法で保育が行われるかは、子どもの育ちや学びに影響を与える。保育は、いたずらに大人の価値観を押し付けることなく、幼児一人ひとりの発達を適切に把握し、発達の課題に即した援助を行うことが重要である。授業では、保育方法についての基本的な考え方を学ぶとともに、幼児の発達の特性に応じた指導、援助について判断できる力を養う。

【授業全体の内容と概要】

幼児期の子ども理解と保育方法について理論的に概説する。また、作業課題や演習問題を取り入れて、学習した理論を実践とつなげながら学ぶことによって、より深い学びとなるようにする。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

(1)子ども理解と保育方法について理論的に学び、保育のあり方の本質を理解する。
(2)子ども一人一人の特性に応じ、発達の課題に配慮した保育について考え、判断することができる。

授業計画

第1回	保育の方法とは:　保育方法の基本と保育の原理
第2回	子ども理解にもとづく保育方法
第3回	子ども理解の方法:内面の理解と発達理解
第4回	環境をとおした保育の方法:保育における環境および環境構成とは
第5回	遊びをとおした保育の方法:子どもにとっての「遊び」とは
第6回	保育における個と集団の関係性
第7回	子どもにふさわしい園生活のあり方
第8回	子どもの発達に応じた保育のあり方(0・1・2歳児の保育)
第9回	子どもの発達に応じた保育のあり方(3・4・5歳児の保育)
第10回	事例をとおして幼児理解と保育者の援助について考える(1)
第11回	事例をとおして幼児理解と保育者の援助について考える(2)
第12回	保育の計画と実践
第13回	保育における家庭・地域との連携
第14回	配慮を要する子どもの保育と対応
第15回	試験

	出版社名	書　籍　名
テキスト	ミネルヴァ書房	「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡邊英則 編著
参考文献	フレーベル館	「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	

授業計画

科目名	卒業研究				担当	岡﨑由美子・持田陽子		
実務経験	－						授業形態	演習
単位数	4				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】
これまでの学習を総合的に活かし、課題提起をしながら研究を行う。
【授業全体の内容と概要】
各自研究を進め、必要に応じて検討会を開催する。教員による指導は、適宜個別に行う。
【授業終了時の達成課題(到達目標)】
以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。
①卒業研究として適切なテーマを設定することができる。
②設定したテーマの情報を収集し、課題に取り組み発表することができる。

授業計画

第1回	前期卒業研究の進め方について
第2回	研究計画書作成提出
第3回	研究
第4回	研究
第5回	研究
第6回	研究
第7回	中間報告
第8回	中間報告
第9回	研究
第10回	研究
第11回	研究
第12回	研究発表準備
第13回	研究発表準備
第14回	研究発表
第15回	研究発表
第16回	後期卒業研究の進め方について
第17回	研究計画書作成提出
第18回	研究計画書作成
第19回	研究
第20回	研究
第21回	研究
第22回	中間報告
第23回	中間報告
第24回	研究
第25回	研究
第26回	研究
第27回	研究発表準備
第28回	研究発表準備
第29回	研究発表
第30回	研究発表

	出版社名	書 籍 名
テキスト	適宜資料等配布	
参考文献		
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、報告、研究発表内容等を総合的に評価	

授業計画

科目名	子どもと自然				担当	渡部　敏郎		
実務経験	教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う						授業形態	演習
単位数	2				学 科	□ ITビジネス	□情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		□システムエンジニア	☑こども福祉科	
			15	15	教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			

【授業の目的・ねらい】

「人間は生き物であり、自然の一部である」というあたりまえのことを基本に「どう生きるか」を考えてみる。
自然という生き物を取り巻く環境が生き物に及ぼす影響や育つ条件をしり、さらに、生き物と自然のかかわりを探求する。
生き物を育て育成する実践活動を通して、生き物への興味・関心を深める。

【授業全体の内容と概要】

生き物に関する基礎的知識と動植物の飼育・栽培方法について学習する。生き物の飼育や栽培などの
実践的活動をとおして生きること育てることの大切さを知り、命の重みに気づく。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

・生き物と自然の関係や育成環境について理解する。
・生物の育成条件と自然とのかかわりを理解し、適切な栽培・飼育の技術、管理方法を習得する。
・保育現場での生き物とかかわる保育についての指導のありかたについて理解を深める。

授業計画

第1～2回　生き物の多様性と自然のとらえ方、生息環境

第3～4回　生き物と自然の構成と人間とのかかわりについて

第5～6回　自分の育てたい植物栽培の技術と育成環境の管理

第7～8回　栽培の実践活動(1)

第9～10回　栽培の実践活動(2)

第11～12回　栽培の実践活動(3)

第13～14回　生物の野外観察・採集

第15～16回　野外観察・採集した生物の食性や習性に関する調査

第17～18回　野外観察・採集した生物の食性や習性に関する発表

第19～20回　近年の子どもの育ちと自然及び環境について

第21～22回　子どもの育ちに与える生き物の影響と関わり方

第23～24回　保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(1)

第25～26回　保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(2)

第27～28回　保育現場での生き物及び自然環境の問題点と留意点

第29～30回　試験

テキスト	なし	
参考文献		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	